

蛭ヶ谷の田遊び

蛭ヶ谷地区の蛭児神社で、2月11日、鎌倉時代から伝承されている国指定重要無形民俗文化財「蛭ヶ谷の田遊び」が行われました。神事では五穀豊穡と子孫繁栄を願う、「ほた引き」「田打ち」など農耕の様子を模した16演目が、燃えさかるかがり火の前で演じられました。天地と四方の悪霊を追放する結果の作法とされる、本刀振り、もどき、長本刀振り、木長刀振り、杵振りと続く呪師芸で始まる神事は、夕刻から深夜12時ごろまで約5時間にわたって奉納されました。

番外の「矢納め」から「蓬萊山」までの18演目を持つ「蛭ヶ谷の田遊び」は、東海地方の多彩な田遊びの中でも、この地域だけの特異な演目がいくつもあります。

凍てつく寒さの中、蛭ヶ谷地区の青年15人は、代々受け継がれてきた神事芸能を厳かに演じ切りました。音曲のない静寂の中、黙々と演じる姿に、集まった観衆は魅了されていました。

観衆が帰ったころ、ほた小僧といわれる新わらの縄に杉の束で作られたものが、本殿脇の桜の木に結わえられ奉納が終わります。



開始前の青年会メンバーや役員らの様子

川の水で清められた道具を運ぶ青年会メンバー



演目を控え準備を青年

本殿での祭儀に整列する青年会メンバーと役員



田遊び奉納青年会
代表 長谷川大介

けがなく無事奉納できて安心しました。この伝統行事を長く継続させていきたいです。



①ほた引き

②里田打ち

③本刀振り

④もどき

⑤長本刀振り

⑥本刀振り

⑦杵振り

⑧田打ち

⑨田打ち

⑩牛ほめ

⑪鳥の口

⑫御草押し

⑬麦つき

⑭麦洗い(魚釣り)

⑮田植え

⑯稲刈り

番外:桜の木に結わえられる ほた小僧

演目紹介

⑧獅子と⑦蓬萊山は現在行われていません

